

防災行政無線のあり方

橘中学校 三年 小原 一隼

僕は防災行政無線に関心があります。先日、小田原市のホームページを調べていたところ、気がかりな情報が載っていました。それは、「自営回線による防災行政無線を廃止し、携帯回線により一部を更新する」という内容です。僕はこれに対し、本当に廃止しても良いのか疑問を持ったので少し考えてみました。

防災行政無線は、市民への防災情報を伝達する手段の一つです。屋外拡声子局というスピーカーからの音声放送により、津波情報や土砂災害警戒情報といった災害情報をはじめ、行方不明者のお知らせ、時報などの情報も流しています。

小田原市で防災行政無線を廃止しようと検討している理由はシステムの老朽化です。機器の更新時期を迎えています。現状と同じ構成で更新した場合、多額の費用がかかります。令和四年一月に行った防災情報に関する住民アンケートでは「屋外拡声子局の放送内容を聞き取れるか」という質問に対し、約七割が「聞こえない」「内容が分からない」という回答があり、多額の費用をかけて防災行政無線を更新したとしても、約三割の住民にしか音声による情報が伝わらないことになるので、現在のシステムの更新が適切か問われています。そこで、小田原市は「屋外拡声子局の更新は安価な携帯回線で沿岸部のみ行う」「スマートフォン向けの市独自の情報を掲載することが出来る防災アプリの導入」「スマートフォンを使用していない人には固定電話に音声で情報を発信することや、防災ラジオ等を配布し、情報を配信する」という方針を掲げています。

これらの方針を見て感じた問題点がいくつかあります。まず考えたのが、スマートフォンを所持していない人が外出していた場合、防災情報を手でできない恐れがあるということ。また、沿岸部のみ屋外拡声子局を更新しても、普段から試験放送を行わないと、万が一故障していた場合、情報を流すことができなくなってしまいます。どちらも避難が遅れる原因となります。試験放送としては、現在夕方に時報を兼ねたチャイムを鳴らしており、このチャイムは市民にとって家に帰る合図となっていますが、これが無くなると帰りの合図がなくなるということにもなり、不便になる可能性もあります。

これらのことから、僕は防災行政無線の廃止は再考の余地があると考えました。そこで僕は、自分なりの防災行政無線の更新案を提案します。屋外拡声子局の沿岸部以外の廃止を取りやめ、市内全域で更新することとします。しかし、この更新には多額の費用が必要となるので、小田原市が計画している携帯回線での更新はそのままに、さらなる費用削減のため

にソノコラムスピーカーを採用します。ソノコラムスピーカーは、従来のスピーカーと比べてより遠くまで音を届けることができ、広い指向性を持っているので、より広いエリアに対応可能なスピーカーです。このスピーカーを採用することにより、同じエリアを少ない屋外拡声子局でカバーできるので、設置間隔を見直すことで費用削減に繋げることができます。また、このスピーカーの特徴の一つとして、聞き取りやすい音声を発することがあるので、「内容が分からない」といった課題も改善することができます。

小田原市には多くの高齢者がいます。そんな中、防災行政無線を廃止してしまうと、災害発生時に不安を感じる高齢者も多いと考えます。最近では豪雨が多いので尚更です。防災行政無線の廃止によって不安を感じるのは高齢者だけではなくありません。子どもを持つ家庭、川沿いに住む住人、障害を持つ方など、多くの人が不安を抱えると思います。僕もその一人です。市民生活に防災行政無線は欠かせない存在です。もう一度、本当に防災行政無線は廃止すべきなのか検討が必要だと思えます。